

① この記事にある内容に基づき、事業者が50万円の関連機器を買ったとします。補助はいくらになりますか。

② 別府市が導入促進策を勧めようとする理由を、記事中の言葉を使って端的に書きましょう。

③ キャッシュレス決済は現金ではなく、どんなものを使って行いますか。例を挙げてみましょう。

④ 現金、非現金それぞれのメリット、デメリットを考えてみましょう。皆さんはどちらが好きですか？

別府市

キャッシュレス化推進



会場金融機関が開いたセミナー。ラグビーW杯を控えて、別府市内ではキャッシュレス化に向けた動きが加速している。26日、別府市

訪日客の決済インフラ整備へ

別府市は、買い物や飲食の支払いに現金を使わない「キャッシュレス非現金決済」の普及に向けて、事業者が関連機器を導入する費用の一部を負担する方針を固めた。ラグビーワールドカップ（W杯）が半年後に迫り、インバウンド（訪日外国人客）にとって利便性の高い決済インフラを整えたい考え。金融機関や経済団体も説明会などを開いて事業者に導入を促す。

市が導入費を一部負担

27日に開会する市議会第1回定例会に、関連事業の予算案（750万円）を提出している。26日に市内に出る。1事業者当たり15万円を上限に、購入費の3分の2を補助する方針。市や飲食店経営者ら約70人が出席。権藤淳頭取が「ターレス対応機器の導入を考え、ゲットになる国の現状を把握している中小事業者を後押し、握した上で、どの決済や端末を導入すれば自社にとって有益か見極めてほしい」と呼び掛けた。クレジットカード会社の担当者は、インバウンドが滞在中にキャッシュレス（カード）決済を利用した割合を調査した結果について説明。全国平均の45%に対し、大分県では13%と大きく下回る現状を示し、「キャッシュレス決済が主流の国もある。機会損失をしている」と指摘した。別府商工会議所は4月に事業者向けの説明会を開く予定。事業者に端末などの利便性を体感してもらう機

（江藤嘉寿）

経済団体も普及に力

別府商工会議所は4月に事業者向けの説明会を開く

(2019年2月27日付朝刊別府面)